神の新創造

GOD'S NEW CREATION

聖書に啓示された自然法則を超える
マインドのパワー

スーパーナチュラルな次元に生きる鍵――フェイス

聖書は不可能を可能にするハイパーライフを提示する

Dr.ルーク・カラサワ著

文芸社

目次

■神の新創造――聖書に啓示された自然法則を超えるマインドのパワー――
推薦の言葉
プロローグ

ポータル１：エデンの園での出来事
人（アダム）の由来と楽園生活
アダムの失敗――罪と死の侵入と統治権の喪失
神から離れた人類の歴史の展開

ポータル２：神による救いの計画
ノアの選びと契約
アブラハムの選びと契約
神の約束とイサクのスーパーナチュラルな誕生
イサクを捧げる――イエスの死と復活の予型
ヤコブの天の門――神の家（エクレシア）の予型
モーセによる律法の介入
モーセのスーパーナチュラルな出自
モーセによるスーパーナチュラルな出エジプト
律法は何のために与えられたか
ダビデ王の選びと契約
ゴリヤテとのスーパーナチュラルな対決
サウル王による迫害
バテシバとの不倫
キリストの王権を予表する
イスラエルの歴史の展開
ソロモンの絶頂期と後退
王国の分裂と捕囚へ

ポータル３：約束のメシアの到来
イエスのスーパーナチュラルな誕生
経緯
霊的意義
スーパーナチュラルな神の国の到来

スーパーナチュラルなイエスのわざ
癒し
不思議
奇跡
神の国
父・子・聖霊なる神
父なる神
子なる神
聖霊なる神
十字架へ――メシアの死
メシアの勝利――スーパーナチュラルな復活
サタンの由来と敗北
イエスの血による新契約
聖霊の傾注――使徒達への継承

ポータル４：物理的領域と霊的領域

人の構成――霊・魂・体
魂の構成――知・情・意
知性の働き――モデルの構成
感情の働き――状況への反応
意志の働き――状況へのアクション
リアリティーは大脳が作り出したもの
色即是空――クオリアの不思議
大脳は現実と幻想を区別できない
人によって異なるリアリティー
現在の主流――自然科学的世界観
聖書啓示のリアリティー
物理的時空間と霊的世界
信仰とは霊的サブスタンスの実体化
御子イエスは神のサブスタンスの現れ
世界は神の信仰と言葉（レーマ）により造られた

ポータル５：スーパーナチュラルを経験する鍵――人の霊

霊は罪により死んでいる――霊的真空
罪の問題はすでに解決している
スーパーナチュラルな霊の再生――Born Again

スーパーナチュラルな新創造――第二のアダムの誕生
　アダム族とキリスト族
神の国は内側に存在する――神的能力・感覚の獲得
神のスーパーナチュラルな介入
　摂理による介入
　直接的な介入
信仰の領域を拡大する鍵――マインドのトランスフォーメーション

ポータル６：祈りは天のポータルを開く
天のポータル（門）としてのイエス
救いはただ信仰による
　旧約の救いと新約の救い
　救いの階層――霊・魂・体の順
神には絶望はない――目前のリアリティーは変えられる
スーパーナチュラルな実を得る鍵――信じることと語ること
神のスーパーナチュラルな愛に生きる

ポータル７：永遠の世界に生きる
悪の根源サタンの究極的運命
スーパーナチュラルな魂の造り変え――トランスフォーメーション
スーパーナチュラルな体を得る――究極の希望
スーパーナチュラルな世界の完成――神と人が調和して共に生きる

エピローグ

――

■神の新創造――聖書に啓示された自然法則を超えるマインドのパワー――

――

スーパーナチュラルなディメンジョンに生きる鍵――フェイス。聖書は不可能を可能にする生き方を提示する。

推薦の言葉　星薬科大学大学院名誉教授　薬学博士仲嶋正一

著者の唐沢先生とは、不思議なご縁で交際させて頂いています。先生は、淡泊、情熱的、加えて、何よりも強く燃えるようなキリストへの愛と献身によって、生活のすべてをつらぬかれておられる、尊敬に値する優れた聖書の学者です。

この書では、創世記に始まる聖書全巻が、超自然、天地創造の神ご自身が、「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」という神様レベルの無限の愛を示しつつ創られた〝人〟への神の絶大なる愛の記録であることを、正確な優れた解釈と記述によって語っています。読者は、この本を読まれることによって、キリスト教が、何故、世界の三分の一と言われる多くの人々の信仰を集めているかということを理解されることでしょう。

人が神を愛するのではなく、神が究極まで人を愛されて、神の写しとして人を与えられ、愛されながら、楽園に居たアダムが罪を犯したために、人間は地上でサタンの標的となった、その人間を、神は決してあきらめられることなく、十字架のキリストによって救われる絶大な愛。聖書に示されるこのドラマチックな人への神の愛、それがそのまま、わたしへの愛でもあることを悟るとき、読者は、神とは何か、己との尊い関係を知って驚き、悔い改めによって神に近づくことができることでしょう。

愛故に、三位一体の神の子なるキリストを十字架上に与えられ、復活によって人類を、原罪によって生じたこの世の、悲劇の現実から救われる、映画のような、神の意図の鮮やかな写実的な表現が、先生の奥深い聖書の学びを通して、読者の心に注がれ理解されれば、キリスト教未信者の方々も神を見つけることができるでしょう。

唐沢先生がこの本に説明されていることは、神様が聖書を通じて人間に開示された超自然の恵みについての詳細な記述です。聖書には、人は、信仰によって神から限りない力を与えられるという真理が示されているのだけれども、そのことを、それほどには正しく把握していなかったクリスチャン、もともとスーパーナチュラルな神様を信じながら、己の中に自己流の小さな信仰の世界を作りがちなキリスト信者に、著者は聖書の真理を旧、新約聖書全巻を通して明快に解説することによって、信仰者は、さらに祝福され、大きな悦びと自信を得て、ハレルヤ、新たなる信仰の力へと導かれることでしょう。

この書が先生の意図される、「未信者に対する聖言による直球勝負、キリストの信仰へ」であるならば、読後、さらに先生の前著『真理はあなたを自由にする』（リバイバル新聞社刊）をも読まれることもお勧めします。

これは、キリスト教の神髄に未だ触れていない方にも、またさらに信徒である方々にも推薦される良書であると思います。

尊敬する唐沢先生が、本書の成果を通して、主から祝福されることを確信して、推薦の言葉と致します。

経歴

・１９５３年、東京大学医学部薬学科卒業

・１９６６-１９６９年、米国コロンビア大学客員研究員

・１９７０-１９９５年、星薬科大学大学院教授

・１９９６-１９９９年、中央聖書神学校聴講生

・日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団港南シオンキリスト教会（野川悦子牧師）所属

・多数の専門論文や著書の他、信仰関係の著書として、『主イエスとともに』（正一・啓子共著、福音出版社）、『み神を慕いて』（正一・啓子共著、文芸社）などがある。

・ホームページ：「聖書の神の出会い」（http://mikamiwositaite.c.ooco.jp/framepage1.html）

◆プロローグ

この本を手にされる方は、けっして偶然ではありません。神（God）のスーパーナチュラルな導きがあるのです。不可能を可能にするスーパーナチュラルなフェイス（faith、信仰）の世界へようこそ。

果たして神がいるのか、いないのか？　その疑問はとりあえず保留しておいて、まずは全体を通してお読みください。それからゆっくり考えましょう。

さて聖書がいう神とは、天地万物を創造された存在です。天地万物はナチュラルな世界、自然科学の対象となり、神はその中に自然法則を制定され、天地の運行をその法則に任されました。これらを造られた神はスーパーナチュラルな存在です。

そのスーパーナチュラルな存在が、罪を犯した人類の救いのために物理的世界に介入された、と聖書はいいます。

聖書の啓示する世界は、本来、物理的時空間に生きるわれわれのマインドを超える世界です。いわゆる五感では把握できない世界であり、普通の理解ではおとぎ話、神話の類と思えるでしょう。が、実は、それはリアリティーなのです。これを知る鍵は人の霊にあると聖書は説きます。

では、この人の霊ってなんでしょうか？

常識的にはイエスはキリスト教の教祖であり、聖書はその経典であると思われています。果たしてそうでしょうか？　あのイエスなる人物はキリスト教の教祖ではありません。では何者でしょうか？　実は、彼は創造主なる神が肉体を取られたスーパーナチュラルな存在です。

そして聖書もキリスト教の教典ではありません。では、何を告げる書なのでしょうか？それは神がこの物理的世界に介入されて語られた神ご自身の言葉です。約一六〇〇年ほどの間に様々な階級・職種の四十人程が記録したのですが、全体的統一性と整合性があるのです。

聖書をキリスト教の教典とか思想や道徳・倫理などの書物と考えている人にとってはちょっと信じがたい世界でしょう。人は自分の既成の世界観から逸脱する事柄には少なからず抵抗感を覚えるものです。　現在、聖書はキリスト教という宗教の世界に閉じ込められて、その豊かにして躍動する世界を一般社会では見ることができません。

本書ではあえて自然科学系の人間として、信仰の有無に関わらず読者と同じ目線と問題意識を持ちつつ、聖書を旅してみたいと思います。キリスト教という一つの宗教の神学や儀式や伝統などに縛られず、万物を創造された超越者たる存在の言葉にある自由な世界を経験するため、人間のマインドによって加工されない生の神の言葉が啓示するスーパーナチュラルな世界を垣間見ます。

物質至上主義が行き詰まり、経済も不安定となり、不気味な犯罪も多発する昨今、地上にはあたかも地獄の門(ポータル)があちこちに開かれているようです。世界情勢もきな臭く、先が見えません。

が、実は、これも聖書の予言のとおりなのです。しかし、絶望には及びません。二千年前にイエスがヨハネよりバプテスマ（浸水礼）を受けられた時、天は裂かれ、その後も天は開いているのです。それは、天国への門（ポータル）。そうです、スーパーナチュラルな世界は開かれているのです。その天の領域、神の国へのアクセスは人の霊(Spirit)によります。

ここで神に出会う時、あなたの目の前の事件や事象によって振り回される生き方から、ダイナミックに神の国の豊かさを味わう生き方にシフトできる道があるのです。人生の方向を変え、新しくデザインすることができるのです。

「神の国はまさに信じる者の内にある」とイエスは言われます。そして「神には不可能なことはない、さらには信じる者にはできないことはない」とまで言われます。これはどんなことを私たちに意味するのでしょうか？　それとも単なるハッタリ的な励ましの言葉に過ぎないのでしょうか？

本書はスーパーナチュラルに地上に人として介入された神であるイエスが模範として提示されたその聖書の世界を発見する旅のガイドブックです。BonVoyage!

なお、本書で引用する聖句は口語訳を原則としますが、邦語訳には訳者による意訳や解釈が入っているため、一部、原語（旧約＝ヘブル語、新約＝ギリシャ語）に従った語句に修正しています。その場合は（原語）と注記いたします。

引用聖書

- 『口語訳聖書』、日本聖書協会
- 『新共同訳聖書』、日本聖書協会
- 『新改訳聖書（第二版）』、日本聖書刊行会
- ”The Holy Bible -King James Version”,American Bible Society

▼ポータル１：エデンの園での出来事

▼人（アダム）の由来と楽園生活

はじめに神は天と地を創造された。……神は「光あれ」と言われた。すると光があった。(注)

――創世記１章１－３節

神は言葉により、光をあらしめ、空と海を分け、次々に創造のわざを行い、六日目に人を造られました。万物は神の言葉によってできたと聖書は証言しています（ヘブル人への手紙11章３節）。この語り出された言葉をレーマ（Rhema）と言います。そして客観的に何かを記述・説明する言をロゴス（Logos）と言います。レーマ（＝言葉）は即時的かつ動的、ロゴス（＝言）は静的です。この二つを本書ではこの二種類の漢字表現で区別します。この区別は重要ですので、あらかじめ覚えておいてください。

（注）「はじめに神は」とある「はじめに」はヘブル語で"Barasheet"です。スペルは〝BRAShYT〟（ヘブル語は母音を略します）。ヘブル語のアルファベット（これ自体がヘブル語の「アレフ（A）」と「ベト（B）」の意味です）には数字がふられており、これをゲマトリアと言いますが、同時に象形文字的な意味あるいはシンボルも付けられています。すなわち、

Ｂ：テントあるいは家
Ｒ：最初あるいは高い人
Ａ：牛・雄牛、第一の、神の究極の力
Sh：歯、破壊する・殺すこと
Ｙ：腕、自分の努力・わざ
Ｔ：十字架、しるしと契約

ＢとＲで〝BAR〟と読めますが、これは「誰々の息子」の意味です。そこでこの聖書の最初の単語に埋め込まれたコードは、「神の最初の息子が十字架で自らの手によって殺され契約となる」と解読できます。つまり紀元三〇年頃に十字架で処刑された罪の犠牲の供え物としてのイエスが暗号化されているのです。聖書の最初の五書を「モーセ五書」と呼び（ヘブル的には「トーラー（=教え）」）、『十戒』や最近のハリウッド映画『神と王』で有名なモーセ（B.C.一五世紀頃、異説では一三世紀頃に活躍した人物）が書いたとされています。イエス自身も聖書はすべて自分について語っていると言っています（ルカ福音書24章44節）。聖書ってスーパーナチュラルな書物なのです。

人の創造の模様は、次のように描かれています。

神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう」。

神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。

神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。・・・

神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。夕となり、また朝となった。第六日である。　　――創世記１章27-31節

人は神の形に、また神に似せて造られた被造物であると聖書は言います。他の被造物とはこの点で本質的に異なります。ですから人には愛をはじめとするもろもろの徳と能力があり、人間にのみ許された尊厳を持っています。さらに詳細に見ますと、

主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる魂（原語）**となった。　　――創世記２章７節**（新共同訳）

アダムとはヘブル語の土とか土壌を意味するアダマに由来します。神によって創造された人類の最初の人でした。神は人の体（Body）を土のチリから造られ、その鼻に命の息（＝霊、Spirit）を吹き込まれると、人は生きる魂（Soul、ヘブル語はNephesh）となったと聖書では述べています。ここで物質である体と神の息（霊）が何らか相互作用を起こして魂ができたと読めるのです。この、物質世界と霊が相互作用することは後で重要になりますので、覚えておいてください。

つまり、体、魂、霊を持つ存在として人間は造られました。この肉体的命をギリシャ語では〝Bios〟と言い、それから現代の生物学（Biology）の語源となります。また、魂のことを〝Psuche〟と言って、いわゆる精神のことであり、これが現代の心理学（Psychology）の語源です。